

全数報告の感染症

- 1 類感染症: 報告なし
- 2 類感染症: 結核 289 例
- 3 類感染症: 細菌性赤痢 4 例 (感染地域: ネパール 1 例、インドネシア 1 例、エチオピア 1 例、マラウイ 1 例)、腸管出血性大腸菌感染症 23 例 (うち有症者 12 例、うち HUS なし) [感染地域: 国内 22 例、エジプト 1 例] 国内の多い感染地域: 大阪府 (3 例) 年齢群: 10 歳未満 (7 例)、10 代 (3 例)、20 代 (4 例)、30 代 (4 例)、40 代 (3 例)、50 代 (1 例)、60 代 (1 例) 血清型・毒素型: O157 VT1・VT2 (10 例)、O157 VT2 (5 例)、O26 VT1 (1 例)、その他/不明 (7 例)、パラチフス 1 例 (感染地域: インド)
- 4 類感染症: E 型肝炎 1 例 (感染地域: 中国、感染源: 不明)、A 型肝炎 2 例 (感染地域: フィリピン 1 例、インド 1 例)、つつが虫病 23 例 (感染地域: 岐阜県 8 例、千葉県 5 例、鹿児島県 3 例、福島県 2 例、青森県 1 例、東京都 1 例、静岡県 1 例、和歌山県 1 例)、デング熱 2 例 (感染地域: ベトナム 1 例、フィリピン 1 例)、レジオネラ症 13 例 (すべて肺炎型) [年齢群: 20 代 1 例、30 代 1 例、60 代 3 例、70 代 3 例、80 代 4 例、90 代 1 例] 感染地域: 北海道 2 例、三重県 2 例、埼玉県 1 例、栃木県 1 例 (温泉)、新潟県 1 例、富山県 1 例、京都府 1 例、大阪府 1 例 (温泉)、兵庫県 1 例、山口県 1 例、福岡県 1 例)、レプトスピラ症 1 例 (感染地域: 沖縄県)
- 5 類感染症: アメーバ赤痢 14 例 (腸管アメーバ症 10 例、腸管外アメーバ症 2 例、腸管・腸管外アメーバ症 2 例) [感染地域: すべて国内] 感染経路: 経口 1 例、性的接触 1 例 (異性間)、不明 12 例]、ウイルス性肝炎 6 例 B 型 5 例、C 型 1 例、感染経路: すべて性的接触 (異性間 3 例、同性間 1 例、異性間・同性間不明 1 例) ヤコブ病 2 例 (ともに孤発性プリオン病古典型)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例 (80 代)、後天性免疫不全症候群 21 例 (AIDS 6 例、無症候 13 例、その他 2 例) [感染地域: 国内 16 例、タイ 3 例、米国 1 例、国外 (国不明) 1 例] 感染経路: 性的接触 19 例 (異性間 4 例、同性間 13 例、異性間・同性間 2 例)、不明 2 例]、髄膜炎菌性髄膜炎 1 例 (感染地域: 国内)、梅毒 5 例 (早期顕症 I 期 2 例、早期顕症 II 期 3 例)

定点把握の対象となる 5 類感染症 (週報対象のもの)

インフルエンザ: 定点当たり報告数は第 42 週以降増加が続いており、過去 5 年間の同時期 (前週、当該週、後週) と比較してかなり多い。都道府県別では北海道 (19.0)、和歌山県 (11.7)、青森県 (11.5)、岡山県 (11.0)、兵庫県 (7.7)、山梨県 (6.7)、神奈川県 (6.5)、埼玉県 (6.2)、千葉県 (6.2) が多い。

小児科定点報告疾患: RS ウイルス感染症は 2,559 例の報告があり、報告数は第 42 週以降増加が続いている。年齢別では、1 歳以下の報告数が全体の約 72% を占めている。咽頭結膜熱の定点当たり報告数は第 44 週以降増加が続いている。都道府県別では青森県 (1.22)、佐賀県 (0.96)、広島県 (0.69) が多い。A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は 3 週連続で増加した。都道府県別では山口県 (4.7)、富山県 (4.2)、石川県 (4.0)、山形県 (3.6) が多い。感染性胃腸炎の定点当たり報告数は第 42 週以降増加が続いている。都道府県別では大分県 (43.6)、長崎県 (33.7)、鹿児島県 (29.6)、熊本県 (29.2)、佐賀県 (29.1)、石川県 (27.3) が多い。水痘の定点当たり報告数は第 41 週以降増加が続いている。都道府県別では石川県 (5.6)、福島県 (3.4)、新潟県 (3.2)、大分県 (3.0) が多い。手足口病の定点当たり報告数は第 46 週以降減少が続いている。都道府県別では沖縄県 (2.53)、大分県 (1.81)、山口県 (0.88) が多い。伝染性紅斑の定点当たり報告数は 2 週連続で増加した。都道府県別では新潟県 (0.66)、大分県 (0.47)、北海道 (0.38) が多い。百日咳の定点当たり報告数は減少したが、過去 5 年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別では栃木県 (0.17)、岐阜県 (0.17)、徳島県 (0.13)、千葉県 (0.11) が多い。風しんの報告数は 6 例と減少した。都道府県別では千葉県 3 例、静岡県、京都府、兵庫県から各 1 例の順であった。ヘルパンギーナの定点当たり報告数は横ばいであった。都道府県別では岩手県 (0.33)、熊本県 (0.19)、宮崎県 (0.19) が多い。麻しんの報告数は減少し、5 道府県から 19 例の報告があった。都道府県別では神奈川県 8 例、北海道 4 例、大阪府 3 例、青森県、福岡県各 2 例の順であった。流行性耳下腺炎の定点当たり報告数は 2 週連続で増加した。都道府県別では秋田県 (2.09)、新潟県 (1.11)、宮崎県 (0.83)、群馬県 (0.82) が多い。

基幹定点報告疾患: マイコプラズマ肺炎の定点当たり報告数は減少した。都道府県別では福島県 (3.0)、沖縄県 (2.7)、群馬県 (2.0) が多い。成人麻しんの報告数は増加し、2 道府県から 4 例の報告があった。都道府県別では北海道、神奈川県から各 2 例であった。

1)	小児科定点											眼科定点		基幹定点								
	RS ウイルス感染症	咽頭結膜熱	菌咽頭炎	A 群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	成人麻しん	
(定点当たり)																						
愛媛県	2.1	.9	.0	2.3	19.5	1.8	.5	.2	1.2			.1		.1		1.4			.3			
近県	香川県	2.9	1.6	.2	1.5	12.0	1.3	.2	.1	.7	.0	.1		.1								
	徳島県	1.9	1.0	.0	1.8	14.8	1.9	.1		.6	.1	.2		.1								
	高知県	.6	.1	.4	.3	14.5	1.8	.8	.4	.6		.1			.3	.1			.4	.1		
全国	4.0	.8	.3	2.0	16.9	1.7	.3	.2	.6	.0	.0	.1	.0	.3	.0	.6	.0	.0	.4	.0	.0	
北海道	19.0	.9	.4	2.8	6.8	2.3	.3	.4	.3	.0		.1	.0	.2		.4			.3		.1	
東北	2.9	.8	.5	2.2	14.9	2.2	.5	.2	.6	.0		.1	.0	.5	.1	.5			1.1	.0		
関東	4.9	.6	.2	2.2	16.9	1.5	.2	.2	.7	.0	.0	.1	.0	.2	.1	.9	.1		.5	.0	.0	
甲信越北陸	1.9	.3	.3	2.8	15.8	2.9	.2	.3	.6	.0		.0		.4		.3	.0	.0	.3	.0		
東海	2.0	.6	.1	1.9	16.4	1.3	.4	.1	.7	.0	.0	.1		.3		.3	.0	.0	.4	.0		
近畿	3.8	1.3	.3	1.5	14.2	1.4	.2	.1	.5	.0	.0	.0	.0	.3	.0	.4			.2			
中国四国	3.8	1.0	.3	1.8	16.3	1.8	.5	.1	.6	.0		.1		.2		.6	.0	.0	.3	.0		
九州沖縄	.6	1.3	.4	1.6	26.6	2.0	.6	.1	.7	.0		.1	.0	.4	.0	1.0	.0	.0	.3			

1) 高病原性鳥インフルエンザを除く。 2) 成人麻しんを除く。 3) 真菌性を含む。 4) オウム病を除く。 (12月12日集計)

全国 全数把握感染症 第49週 (2007.12.3 ~ 12.9)

疾病名	二類 (2) 結核	三類感染症					四類感染症														五類感染症																		
		(1) コレラ	(2) 細菌性赤痢	(3) 腸管出血性大腸菌感染症	(4) 腸チフス	(5) パラチフス	(1) E型肝炎	(3) A型肝炎	(4) エキノコックス症	(6) オウム病	(10) Q熱	(12) コクシジオイデス症	(18) つつが虫病	(19) デング熱	(23) 日本紅斑熱	(24) 日本脳炎	(28) ブルセラ症	(30) 発疹チフス	(32) ポツリヌス症	(33) マラリア	(35) ライム病	(39) レジオネラ症	(40) レプトスピラ症	(1) アメーバ赤痢	(2) ウイルス性肝炎 (E型及びA型肝炎を除く)	(3) 急性脳炎	(4) クリプトスポリジウム症	(5) クロイツフェルト・ヤコブ病	(6) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	(7) 後天性免疫不全症候群	(8) ジアルジア症	(9) 髄膜炎菌性髄膜炎	(10) 先天性風しん症候群	(11) 梅毒	(12) 破傷風	(13) ドウ球菌感染症	(14) パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	(14) パンコマイシン耐性腸球菌	
全 国	289	4	23		1	1	2					23	2									13	1	14	6	1		2	1	21		1		5					
第49週報告数	四国	愛媛県	2																					1															
		香川県																																					
		徳島県																																					
		高知県	1																																				
	ブロック別	北海道	9																			2																	
		東北	18		1								3											1															
		関東	105		3	7	1		2				7	1									2		6	1				14			2						
		甲信越北陸	16			1				1													2		1	1			1		1								
		東海	41		1	2							9										2		2	2				1	3			1					
		近畿	26			5							1										3		2		1		1		2								
中国四国	18			2																	1		2						1										
九州沖縄	56			5								3	1									1	1		2									3					
週推移	全 国	49週	289	4	23		1	1	2				23	2									13	1	14	6	1		2	1	21		1		5				
		48週	236	4	39		1		2				29	1						1			7		9	2		6	1	8	1			14	1		2		
		47週	267	4	67				2				24		2								8		5	1	3		1	9				4			2		
		46週	289	9	47	1			3				19	1	5						1			7		9	4			1	16			10	2				
2007年累積数	全 国	愛媛県	251	3	26					1														7		5	1	1	6	1	10				6				
		香川県	95	3	15				2					3										3		1	2	1	3				4						
		徳島県	140	1	19				1															2		3		1	1	3	1			1		1			
		高知県	115		25				1															1	5		6	1	6		1		6	2					
	ブロック別	北海道	556		6	109	1		10	9	13	1											1	3	30		23	5	12		3	6	19		13	5	1		
		東北	933	2	19	526	4	3	4	12			5								2				46		41	11	12		3	6	39		2	27	8	7	
		関東	6285	7	220	1131	16	11	10	44	3	8	1	3	60	44	1				1	29	5	172	6	318	64	62	2	40	29	699	28	6	258	25	36		
		甲信越北陸	897		16	367	2	1	4	10					11	2		2						2		68	1	33	13	13	2	11	7	30	2	20	7	7	
		東海	2279		62	313	5		15	16		3	1		27	8	15	1						3	1	95	1	83	15	9		14	11	187	3	2	114	5	12
		近畿	3187	3	70	861	13	4	4	23					13	19	20								11		159	56	50		24	8	257	14	2	60	9	8	
中国四国	1597		32	386	3		3	13					15	3	23	3								61		33	38	17	1	25	15	59	4	1	43	4	2		
九州沖縄	2277		11	814	1	1	2	18					59	9	29	3								1	1	56	25	48	20	32	1	15	9	89	3	138	24	1	

・医療機関での診断日をもとに集計。集計日以降の報告数は、次週以降の累積に反映されます。
 ・2007年4月からの法改正に伴い、疾病の追加および並び順を一部変更しました。